

地方出版

情報誌

アクセス

毎月1回	1日発行
購読料	定価 150円 (本体 143円)
	年間 1,500円 (税込み)
振替	00120-0-19017

発行所 (株)地方・小出版流通センター  
編集 アクセス編集委員会

〒162-0836 東京都新宿区南町20  
TEL.03-3260-0355 FAX.03-3235-6182

## ジュンク堂新宿店で首都圏出版人懇談会トークセッション開催 元気いっぱい地方出版の底力

文・片桐 務

「首都圏出版人懇談会」(以下、首都懇)は、東京・神奈川・埼玉・千葉・栃木・茨城・群馬・福島の前7都7県でそれぞれの地域にこだわりつつ独自の出版活動を続けている17の出版社で構成されています。1990年12月に発足以来、「首都圏の本」共同目録の発行、ブックフェア(以下、BF)の開催、出版に関わる研修会の開催などを通じて、首都圏における地域出版のネットワークづくりにも励んできました。

2008年11月15日(土)、雨上がりの肌寒い夕方、新宿三越アルコット8階、ジュンク堂書店新宿店の「喫茶コーナー」で首都懇のトークセッションを開催しました。「元気いっぱい地方出版の底力—著者・企画担当が語る存在意義と可能性」と題して3人のゲストを迎え、長引く出版不況の中、地方出版の現状や生き残りのための課題について、熱気溢れるトークセッションとなりました。

ジュンク堂書店6階には常設の「ふるさとの棚」コーナーがあります。担当の満園春菜さんによれば、常設在庫約2500アイテム(地方・小出版流通センター経由で約100社、その他の版元多数)が陳列・販売されています。このコーナーの顧客は50代以上の男性が圧倒的で、時間をかけて本を選び、まとめ買いをする読者が多いそうです。もともと首都圏には地方からの出身者が多く、このコーナーの狙いもまさにそこにあるわけです。

ここで開催されたBF「ワガシャノリキサク」(2008年10月15日~12月25日)には、全国の地方出版62社から186点の「力作」が集まり好評でした。



今回のトークセッションはBFの協賛企画として開催されました。地方・小出版流通センターの川上さんから相談を受けた首都懇は、地方出版の現状、課題やこれからの可能性について、著者や企画担当者の目線から迫ることにしました。司会進行は、首都懇会長の星野和央(さきたま出版会)が担当しました。

『ガイドブックに載らない北鎌倉の神々』(夢工房)の著者である野口稔さんは元共同通信記者。第2のふるさと北鎌倉に住み、10年前にナショナルトラスト運動に関わり地域デビュー。市民への情報発信にインターネットと情報誌を活用しました。昨年定年退職し、地域の路地裏まで知る市民と地域出版社のコラボレーションで、中央の出版社では表現できないガイドブックをつくり、円覚寺の門前で対面販売するという体験をしました。

『森詠の今日のつづきは、また明日』(随想舎)の著者である森詠さんは、「週刊読書人」の編集者を経て作家になり、『日本封鎖』などの著作があります。少年期を過ごした栃木・那須での物語『少

年記 オサム14歳』の映画化を果たし、地方の上映会場でサイン会を体験することで、原稿を書くだけでは知りえなかった読者の姿が見え、本を売ることの大切さを実感しました。

『やさしいみんなの秩父学』(さきたま出版会)の企画担当者である松本賢治さんは、秩父商工会議所事務局長。秩父で観光客をもてなすためには、まずそこに住んでいる人びとが地域のことを知り、ふるさとを愛することが第一歩と、埼玉県内初のご当地検定「秩父検定」を企画しました。まちおこしのキーマンとして、そのテキストを編集・発行することで、情報発信の媒体として「本」の果たす役割の大きさを初めて知りました。

3人のゲストは、異口同音に地方出版社の存在意義を、地域文化創造のキー・パーソンと位置づけました。「出版不況と嘆くばかりでは変わらない。受け身の出版ではなく、積極的に地域に入り、人びとに出会い、さまざまなテーマを掘り下げるプロデューサーとしての役割を果たすことができれば、これからの地方出版の可能性は無限だ」とエール送りました。

地域にこそ、人びとの生活文化があり、本の題材が潜み、書き手が住み、売り手がいて読者がいます。編集者はそれらを編みこむという、当たり前の地方出版の基本を再確認できたトークセッション。本づくりの後の、書店だけに頼らない、インターネットの活用や本の内容に合わせた独自の販売方法など、越えなければいけないハードルは高いのですが、「どっこい! 地方出版の底力の見せどころ」と、新たな意欲が湧いてきました。

(かたぎり・つとむ 首都圏出版人懇談会事務局、夢工房代表)

# 新刊ダイジェスト

※価格は総額(税込)表示です。

## 『中国新思考 ー現役特派員が見た真実の中国1800日』 ●藤原大介著



JNN(TBS系)の中国特派員として、弱冠26歳の著者は北京に派遣された。中国特派員としては当時最年少。2003年10月から3年余、既成觀念に囚われない新鮮な目と、誠実で率直な姿勢で中国と中国人に向きあい、日本と中国を考え続けた記録である。赴任早々、反日デモを取材。「反日」と「嫌中」が渦巻くなかで「解決」を常に思考、模索し続けた著者の真摯さに打たれる。ここに収

録した文章は、中国で発行されている雑誌『中日伝播』に掲載されたもの。中国人も日本人も読むこの雑誌に、双方からの非難を覚悟した上で、日中に横たわる「コミュニケーション・ギャップ」を埋めようと寄稿した著者の勇気と熱意が伝わってくる。中国語日本語対訳。

◆2730円・A5判・316頁・日本僑報社・東京・2008/11刊・ISBN978-4-86185-079-0

## 『市民のための環境監視』 ●中地重晴著



琵琶湖を有する滋賀県は環境先進県といわれて久しいが、それはこの小さな民間研究所を抜きにしてはありえないであろう。本書は「科学的なデータがほしい」という住民の要望に応じて著者らが設立した、小さいが質の高い仕事をする「環境監視研究所」20年の歩みを紹介する。農業によるゴルフ場排水汚染、ゴミ処分場、琵琶湖の水質、チェルノブイリ原発事故による放射能汚染、アス

ベスト、豊島産廃問題をはじめとする多種多様な環境問題に先駆的に取り組み、厳密な分析による正確なデータを次々と市民に提供してきた。さらに、問題に関わった元国交省公務員、新聞記者、自治体の長らからの寄稿、対談、膨大な資料等を満載。

◆1890円・A5判・247頁・アットワークス・大阪・2008/10刊・ISBN978-4-939042-46-1

## 『産鉄族オオ氏 ー新編 東国の古代』 ●柴田弘武著



著者は30年前、最古の東国関係史料である『常陸国風土記』を基に、古代常総地域が大和朝廷の支配下に置かれる時期を、7世紀後半の天智朝の庚午年籍作成以後であると結論付け、『古代の東国史』を刊行した。本書は、その後の新出史料や風土記の新たな解釈により、全面的に補訂したものだ。また、新東京国際空港建設など、関東から東北にかけて相次いだ古代製鉄地遺跡の発掘によ

り、フィールドを相模から陸奥まで拡大して論旨を補強。常総はそれまでオオ族系の産鉄族が支配していた。西方の氏族に組み込まれる構図が、近代、北九州から来た新日本製鉄が鹿島灘で操業することに重なるという因縁も面白い。

◆1890円・新書判・326頁・崙書房・千葉・2008/8刊・ISBN978-4-8455-1143-3

## 『文士と編集者』 ●大久保房男著



型にはまらず、いつまでたっても自分に正直なのが文士の特質。昭和21年の文藝雑誌「群像」創刊当時から20年間、編集者として活躍した著者はそう語る。本書は昭和44年から平成20年までの40年間に発表された評論や随想をまとめたもので、文士と編集者の密接な関係が記されている。多くの文士が登場する中で、特に晩年の高見順氏との交流や出身大学が同じで若い時から親

しかった遠藤周作氏の文学館創設などにまつわるエピソードが印象深い。また、文士と食べ物といった食事を題材としたものや丹羽文雄氏らと回った文壇ゴルフ談義など、ユニークな視点からのエッセイも多く、剛柔織り交ぜた内容で当時の文士の姿を余すところなく伝えてくれる。

◆2625円・四六判・345頁・紅書房・東京・2008/9刊・ISBN978-4-89381-239-1

## 『「本の雑誌」炎の営業日誌』 ●杉江由次著



本の雑誌社たったひとりの営業マン・杉江さんによるウェブ連載「炎の営業日誌」。その名の通り、本に、書店に、家族に、そして一番大切といって憚らない浦和レッズに熱烈な愛を注ぐ毎日。本の仕事に携わる人は深く頷き、偶然この本に出会った読者は一冊の本にどれほどの想いが込められているかに驚くだろう。本は、書かれ、編まれ、刷られ、製本され、その本を知らせてくれる営業さ

んがいることで書店で売られ、そして読まれる。書店員の声を掬い上げる「本屋大賞」創設も著者の大きな功績だ。妻子や両親への想いにも胸が熱くなる。唯一の色は浦和の赤。沢野ひとし画伯による挿絵にニヤリ。秋田の古本屋からスタートした無明舎出版から。

◆1680円・四六判・254頁・無明舎出版・秋田・2008/10刊・ISBN978-4-89544-488-0

# 売行良好書

期間：2008年11月16日～12月15日

## 【出荷センター扱い】※税込み価格

- (1) 『ゆりちかへ』 1365円・書肆侃侃房 (2) 『作っておくと、便利なおかず』 1260円・ベターホーム出版局 (3) 『新装版 不思議の国のアリス・オリジナル』 2100円・書籍情報社 (4) 『かつら文庫の50年』 1000円・東京子ども図書館 (5) 『ひとりひとりすくと立って』 1260円・澪標 (6) 『このマンガを読め！2009』 882円・フリースタイル (7) 『おじいちゃんの出会ったふしぎな話』 1470円・さんこう社 (8) 『お位牌はどこから来たのか』 2205円・興山舎 (9) 『水に舞う不死鳥』 1575円・弦書房 (10) 『自閉症の子どもたちの生活を支える』 1575円・筒井書房 (11) 『ワールド版 かも類の観察』 1050円・トンボ出版 (12) 『ドングリの木はなぜイモムシ、ケムシだらけなのか？』 1890円・サンライズ出版



## 【三省堂書店神保町本店4F—センター扱い図書】※税込み価格

- (1) 『東京かわら版 No.419』 420円・東京かわら版 (2) 『戦国大名浅井氏と北近江』 1890円・サンライズ出版 (3) 『佐野繁次郎装幀集成』 2310円・みずのわ出版 (4) 『昭和プロレスマガジン 16』 1000円・昭和プロレス研究室 (5) 『酒とつまみ 11号』 400円・酒とつまみ社 (6) 『限界集落と地域再生』 1680円・高知新聞社 (7) 『ひとりひとりすくと立って』 1260円・澪標 (8) 『温泉達人会 2』 735円・海象社 (9) 『なりきり映画考』 1890円・書肆侃侃房 (10) 『うつのみや歴史探訪』 2100円・随想舎

## 【ジュンク堂書店新宿店—センター扱い図書】※センター出荷データより/税込み価格

- (1) 『東京かわら版 No. 419』 420円・東京かわら版 (2) 『広告批評 No. 330』 590円・マドラ出版 (3) 『昭和プロレスマガジン 16』 1000円・昭和プロレス研究室 (4) 『本の雑誌 No. 306』 530円・本の雑誌社 (5) 『e a s i t 創刊号1』 630円・アミーゴブックス (6) 『NO! No. 103』 300円・海鳥社 (7) 『あっちゃん あがつく』 1890円・リーブル (8) 『おすすめ文庫王国2008年度版』 798円・本の雑誌社 (9) 『新装版 不思議の国のアリス・オリジナル』 2100円・書籍情報社 (10) 『なりきり映画考』 1890円・書肆侃侃房

以下ホームページでも各種情報提供を行っております。ご利用ください。  
<http://www.bekkoame.ne.jp/~much/>

# トピックス — ★★

## ▼ジュンク堂書店新宿店フェア情報

12月中旬から2月初めまで、ジュンク堂書店新宿店6Fにて三遠南信・春夏秋冬叢書全点フェアが開催されます。『三河の広告』『国道一五号一五一話』『各駅停車飯田線』等、三遠南信に関するユニークな出版活動を続ける春夏秋冬叢書の刊行物の他に、同社刊行物の切り絵風な表紙イラストや挿絵を担当する宮田香里さんのイラストグッズや物産品も限定発売する予定。また同時期7Fでは心理雑誌バックナンバーフェアが行われます。センターからはアスク・ヒューマンケア刊の『Be!』やヘルスワーク協会刊『アディクションと家族』を出品予定。普段は書店店頭では販売しないアスク・ヒューマンケア刊の『摂食障害なんてこわくない!』(420円)や『ひきこもり』という悲鳴(420円)等の冊子も展示販売します。

## ▼雑誌情報

屋久島発では唯一だったミニコミ誌『生命の島』が2008年で活動を休止します。編集長の方が11月に亡くなり、継続が難しくなったのが理由とのこと。最終号の84号は地元販売のみとし、センターで扱うのは10月に出た83号が最終となります。

※前号のこの欄で「ジュンク堂書店新宿店6Fくふるさとの本」となっていたのは「ジュンク堂書店新宿店6Fくふるさとの棚」の誤りでした。お詫びして訂正いたします。

## 郵便販売のご注文方法

◎お名前、お届け先（郵便番号、住所）、連絡先お電話番号、ご注文品の書誌名、冊数の必要事項を明記のうえ、下記までFAXでご連絡ください。


◎送料は、冊子小包・メール便実費でお送りさせていただきます。基本的にメール便は、一冊210円でお送り致します。（メール便の到着は、発送してから3～4日かかります。）お急ぎの方、その他ご要望がございます場合はお気軽に下記までお問い合わせ下さいませ。

◎なお書籍お買上総計（税抜き価格）が5,000円以上の場合は、送料をサービスさせていただきます。

★地方・小出版流通センター

FAX：03-3235-6182

地方・小出版物のデータになります。綴じて保存してください。



# 三省堂書店

BOOKS SANSEIDO

**神保町本店 4階**  
**地方出版・小出版物フロア**

営業時間 10:00 AM～8:00 PM  
 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1  
 TEL. 03-3233-3312(代)  
 URL. <http://www.books-sanseido.co.jp>

営業の  
ごあんない

本店4階売場では、地方・小出版流通センター扱いの新刊全点のほか、地域別に書籍を取り揃えております。また、地域ならではのタウン誌、趣味の雑誌も扱っております。

